

未来



全労協・郵政産業労働者
ユニオン長崎中郵支部
機関紙・「みらい」
NO. 4038
20年3月10日(火)
Tel・Fax 095-828-1953

業務量に応じた 適正な要員配置を

おはようございます。

先日の集配部のミーティングで日曜、祝日における書留やゆうパケットの配達の見直しの周知があった。

現行では書留やゆうパケットが物増の時は当日配達すべき郵便物（配達日指定やアマゾンゆうパケットなど）を中心に配達して、配達できない分は翌日配達にまわしている。これを新年度の4月から書留、ゆうパケットは当日中にすべて配達するように変更になるとの事で、これは土曜休配を想定した会社の方針らしい。

管理者からは「今日の日曜日の仕事ぶりを見てみると書留やゆうパケットを翌日まわしにしている反面、郵便物の大区分をする時間は確保している」との発言があった。

そして、3月の日曜日に試行的に配置等を見直し、実際にどのくらいの要員が必要か調査するとなった。



第3集配部を例にすれば現行、各班1名が中勤や夜勤で書留やゆうパケットを配達しているがそれを日勤に変更し、日勤混合の3名を夜勤に変更した。ひとまず増員配置は行わず超勤で対応することになった。

日曜、祝日の配達はゆうパケットの増加により時間に全く余裕がない。居住確認は必須で配達区に精通している社員でも超勤で対応している状態だ。これを今の人員で当日中に配達は無理がある。配達区が6区ある班もあるれば長崎特有の山などを抱える班など事情は様々だ。

調査である程度は数字がはっきりしてくるだろうが決して配達の速い人を基準にしてはならない。

今でも日曜、祝日は管理者不在が多い為、時間前着手や休憩時間の未取得が横行している状態なのに適正な要員配置ができなければいわゆるサービスマン残業は拡大するばかりだ。

そして我々、配達する側もこの3月はちゃんとした数字を示さなければならぬ。誰でも人より早く多く配達したいかもしれないが能力は人それぞれだ。勤務時間を守り、自分が配達できる数字を会社に示さなければ結局は自分自身の首を絞めることにもなりかねない。



今回の日曜祝日の配達見直しにあたり管理者には勤務時間管理をいつも以上に徹底してもらいた

い。そして誰もが納得できる業務量に応じた適正な要員配置を行ってほしい。

職場の声

先日、ある集配部の社員が配達中に自分が乗車しているバイクの鍵を紛失した。そして、そのバイクはスペアキーがなく保守店にお願いして鍵を交換、作製してもらったことになった。

鍵の交換はガソリンタンクと2カ所だったため本来ならば高額修理の3万円を超えるところを保守店のサービスで高額修理は免れた。とミーティング等で説明があった。

この話を聞いてまず、誰でも思ったのが「スペアキーがない？」ということだ。

勿論、鍵を無くした社員が悪いのはわかっているが聞けば、郵政点検などの状況などからスペアキーがないことを管理者は把握していたはずだ。そしてこのスペアキーなかつた状態を放置していた責任はどうなったのだろうか？

鍵を紛失した社員は私に「めっちゃくちゃおこられました」と訴えた。



jpg/Labor/Labor126.jpg

今の職場は「ミスをしたあなたが悪い」という雰囲気になっている。

誰でもミスをした時には当然反省もするが言い分もある。その言い分には愚痴なども含まれるが今はその愚痴さえもこぼせない職場になってきている。そんな中で当事者の立場になって聞いてあげられるのははやユニオンの組合員ぐらいいないのかもしれない。

おこやみ

向井副支部長のお母さまがお亡くなりになりました。葬儀は9日に営まれました。謹んでお悔やみ申し上げます。

期間雇用パート労働者の皆さん！ 困りごとは職場の郵政ユニオンへご相談を。

1集-海江田, 2集-向井, 3集-山田, 支部・分会の役員へ。

仲間と競争せず、弱い立場の人と共に団結して闘おう。

期間雇用社員と正規社員の格差をなくす。

均等待遇を求め、差別なく働き続けよう。